

島根原発2号機の再稼働判断プロセスは

(知事)規制委員会や国から説明を受け、立地自治体および周辺自治体などから意見を聞き総合的に判断する

一般質問

島根原発2号機の審査終了後のプロセスについて

【問い】国の審査終了後、県は具体的などのようなプロセスで再稼働に係る判断をしようとしているか、現時点での考えを伺う。

【答え】2号機の再稼働については、国の審査終了後、規制委員会から審査結果についてまず説明を受け、政府から再稼働の必要性や住民の避難対策について説明を聞き、住民の参加する安全対策協議会、専門家で構成する顧問会議、県議会、立地自治体及び周辺自治体などから意見を聞いて総合的に判断していく。

島根原発の稼働について

【問い】県民の命を守る事が県政の使命である。福島原発事故の教訓が反映されない新規制基準、未確立な核のゴミの処理方法、ひずみ集中帯の存在や未知なる活断層の危険性、実効性のある避難計画が未策定など、稼働条件は皆無である。そして何よりも稼働反対が県民の願いであり、「原発ゼロの島根」の実現こそ進むべき道であると思うが、いかがか。

【答え】県民の方々ははじめ、関係自治体などの意見もよく聞き、県として対応していく。

地元住民の皆さまの思いを風化させたい。この治水事業についての知事の思いを伺う。

【答え】県政にとって大きな重要課題の一つ。関係する多くの地元住民との協議を重ね、長い年月をかけて一歩ずつ積み上げてきた歴史がある。平成28年に完成した記念館が十分活用されるよう、出雲市とも連携し、協力いただいた全ての皆さまの思いを後世に末永く継がれるよう期待している。

事業着手時期の見通しや完成年月について伺う。

【答え】この崩壊場所を含む区間の道路改良事業については、これまで道路と並行する江の川の河川整備計画等の調整や地元説明を行ってきたが、今年度から用地買収に向けた現地での調査に着手する。今後、早期完成を目指し、一層の事業の推進に努めていく。

魅力向上などといった課題について、田舎ツーリズムに取り組み方々が克服し、より広い地域で取り組みが進み、中山間地域ならではの特色を生かした事業として継続するよう支援していく。

緊急輸送道路における橋梁の耐震化について

【問い】今年度に入り震度5以上の地震が既に3回発生している状況を踏まえ、緊急輸送道路における橋梁の耐震対策について考えを伺う。

【答え】4月の県西部を震源とする地震をはじめ、大きな地震が頻発し、防災対策の重要性和必要性が高まってきた。緊急輸送道路の橋梁耐震化は計画的に進めているが、今後も着実な事業進捗に努め、国に対しても必要な予算を十分確保

し重点的な配分がなされるよう、引き続き働きかけを行っていく。